

# キララ星

日常生活に欠かせない携帯電話のメール。このメール機能を支えるのが、フォント(文字)を液晶画面に表示するソフトを開発するベンチャー企業、リムコーポレーション(浜松市、竹塚直久社長)だ。文字の読みやすさを意識した独自技術が評価され、国内で販売される携帯電話の7割に同社のフォントが採用されている。同社は今、中国の携帯電話市場を攻略しようとして、知恵を絞っている。

「正確な漢字が読みやす」とは限らない」。竹塚社

## リムコーポレーション 携帯電話のフォント開発

### 《会社概要》

- ▽本社 浜松市西区村楠 4598の9
- ▽事業内容 携帯電話向けフォント開発
- ▽社長 竹塚直久氏
- ▽従業員 16人
- ▽売上高 2億2000万円 (2009年9月期、帝国データバンク調べ)



ルーペで拡大しないと見えないほど小さい文字も表示できる

## 読みやすい漢字 中国開拓

長はこう話す。

携帯電話のフォントは、無数の点(ドット)を組み合わせて文字を表現するの

字の線を一部省くなど正確さにとらわれないことで、同じ漢字文化圏の中国でならチャンスがある」とみて

が主流だが、画数の多い漢字はつぶれたようになり読みにくいケースがある。そんな文字も表示できる。

逆に進化はしていないが、実用化はしていないが、米粒に写経できるほどの小さな文字も表示できる。

ここで同社は発想を転換。漢

国内では圧倒的なシェア

る。同社は原則、中国企業

減る日本市場では、大きな

(浜松支局 伊藤大輔)

を握る同社は、中国に目を向けていく。競争相手は、欧米の携帯電話メーカーである欧米のフォント開発会社は、アルファベットの表示技術は得意だが、形の複雑な漢字は

と直接取引せずに、欧米企業を介して中国にフォントを売り込む考えだ。

まず知的財産権に厳しい欧米の携帯電話メーカーにフォントを売り込む。同社のフォントを採用した欧米製の携帯電話が中国で販売される形で、中国でのシェアを伸ばす狙いだ。この方法であれば、中国に技術が流出する危険性を減らせるほか、欧米の携帯電話メーカーにも利点がある。

携帯電話に頼る収益構造にはリスクも残る。携帯電話メーカーから生産台数に応じたライセンス料を受け取ると、ソフト業界のリーダーを目指す」という創業理念のもと、中国の携帯電話市場への挑戦を続ける。

成長は望みにくい。グローバル展開のほか、新たな市場開拓も欠かせない。

収益を安定させようと、欧州の高級車市場に狙いを定めている。カーナビやカーオーディオ向けにフォントを売り込む考え。高級車メーカーが集積するドイツに代理店を設け、営業活動を活性化させている。

携帯電話のフォントというニッチな市場で存在感をみせる同社。リム(LIM)という社名の由来は「リーダーシップ・イン・マイクrosoftウエア」の頭文字だ。「ソフト業界のリーダーを指す」という創業理念のもと、中国の携帯電話市場への挑戦を続ける。